

東洋医学通信

小児はりって どんな鍼なの?

『小児はり』というのをご存知でしようか?

鍼と聞くと、大人でも一瞬「痛くないのかな?」と思われる方が少なくないです。そんな大人でもひるんってしまう鍼を子どもに?と、思つてしましますよね。

実際、小児はりの施術について、多くの親御さんから「どんなことをするんですか?」「鍼は刺すんですか?」と聞かれます。

今回はそんな小児はりのお話を聞いていきます。

小児はりで使う鍼とお灸

小児はりでは、大人の方に使う一般的な鍼はほとんど使うことはありません。



『刺さない鍼』の効果は?

皮膚を刺激するだけで、本当に効果があるのかと思われるでし

子どもに使う鍼のほとんどが、先の尖っていない、もしくはチヨンと肌に触れる程度の『刺さない鍼(接觸鍼)』を使用します。

実はこの小児はりは、古くは江戸時代からあります。大阪にある針中野では、鍼治療が昔から盛んだったことから、その名前になつたと言われていて、そこでも小児はりがよく使われていたようです。

またお灸も行いますが、米粒大にした艾を紙の上から据えたり、棒のお灸を肌にかざすなどが主です。

鍼がどうしても怖いという大人の方にも、接觸鍼を使用する場合があります。最近では高齢者の施術現場でよく見かけるようになりました。

子どもは身体が小さく、また発達途中なので刺激の感受性が高いのです。なので、皮膚の刺激で十分に効果があるのです。

どんな症状に効果あり?

ではどんな症状に小児はりは効果があるのでしようか?

小児はりは生後半年前後から行え、色々な症状に対応しています。中でも昔から良く効くと有名だったのは、夜尿症と疳虫です。五歳以上で三ヶ月以上夜間の

よう。

しかし皮膚刺激は身体にかなり変化を及ぼすとされています。

日本では古くから『手当て』とい

う言葉があるように、手を痛む所に当てるだけで痛みが緩和されます。北欧では、子どもの皮膚接触によるスキンシップが増え事で、幸せホルモンであるオキシトシンが増えたという報告も有名です。

どちらも自律神経の乱れが原因なので、鍼灸の適応症です。

また最近では朝起きれない、夜中に何度も起きてしまう等の睡眠障害や、頭痛や吐き気を伴う不安症で子どもの患者さんが多く来院されます。

コロナ禍以降、子どもでも様々な自律神経症状を訴えて相談に来る方が増えています。刺さない鍼で痛くない施術もできますので、一度相談にきてください。

